在外教育施設における総合的な学習の開発と試行

―― 現地障害者施設へのボランティア活動を通して，より豊かな国際理解を身につける ――

保健体育科　渡　辺　松　一

目　　次

I　はじめに…… 44
II　研究の目的・方法…… 44
　1　目　　的…… 44
　2　方　　法…… 44
　3　研究期間…… 44
　4　研究の対象…… 44
III　実　　践…… 45
　1　単元計画…… 45
　2　保健・体育の実践…… 45
　3　総合的な学習としての取り組み…… 48
　4　当日の活動…… 57
　5　事後学習…… 57
IV　結果と考察…… 58
　1　報告書（感想文）の作成…… 58
　2　単元終了後のアンケートおよび感想とその考察…… 59
V　まとめと今後の課題…… 61

要　　旨

本実践研究は，来るべき学習指導要領で明示されている「総合的な学習」を教科「保健・体育」の側面から，どのようなアプローチから迫りかつ生徒にとって意味ある体験的な学習につながるかを考えたものである。また実践研究の場である在外教育施設の中で，その国で生活する生徒にとって「現地理解教育」をいかに推進していくことができるかを考えたものである。

今日的な課題であるボランティア活動を通した学習は，生徒にその大切さを十分に実感する大切な機会となったと考えられる。感想やアンケート結果から，生徒のボランティア活動に対する意欲や態度，また国際的な理解につながった感想は好意的なものであった。実践後はボランティア活動に対する理解はより深まり，目的を十分に達せられたといえる。課題として，この活動が在外教育施設にとって大きな課題である「継続的な国際理解・現地理解教育」を作っていくシステムの確立にとって何が必要かが明らかにされたと考える。

I　はじめに

私が在マレーシア日本国大使館附属クアラルンプール日本人学校に赴任した1年目，マレーシア日本人会からの要請により，障害者施設へのボランティア活動が始まった。教職員の合意の上，移動教室や修学旅行のない中学1年生がその活動を行うことになった。

初年度の取り組みとして，全4クラスが一日おきに障害者施設へ訪問し，「ボランティア活動」を体験した。事前学習として，障害者に対する接し方や，介助の際の方法などの指導も含め，特別活動の中で行った。その際，生徒への指導助言は元養護学校で教鞭を執っていた私が担当した。この年の取り組みは，その後夏季休業中に有志生徒によるボランティア活動へと発展し，一応の成果を残すに至った。

次年度の取り組みとして，学年教員集団で話し合った結果，私の担当する「保健・体育」の授業内容とクロスし，なおかつ「総合的な学習」を見据えた内容を実践検証することにした。

II　研究の目的・方法

1　目　　的

日本人学校という特殊な環境の中にいる生徒が，その国にある障害者施設で「ボランティア活動」を行うことで，より豊かな国際理解を深めていくための「総合的な学習」を開発・試行をする。また教科「保健・体育」の立場から，どのような内容を企画していくことが，その目的に到達していくことができるのかを実践検討していくことを目的とする。更に，活動の中にある問題点を洗い出し，その後この活動が日本人学校の中でどう発展し継続的な国際理解教育になるのかを検討することを目的とする。

2　方　　法

(1)　前述の目的に従って単元計画を立てる。

(2)　学年および学校集団全員で指導に当たり，学校全体としての取り組みの体制を確立する。

(3)　各授業を公開授業研究会とし，他の教師の意見を吸い上げ今後の実践への課題を明らかにする。

(4)　生徒に対する事後アンケートを実施し，生徒にとっての取り組みの意義を調査する。

3　研究期間　　1999年2月～1999年3月

4　研究の対象　　中学部1年生　全4クラス

III 実　践

1　単元計画

No.	項目及び学習内容
1	道徳　オリエンテーション 昨年度，障害者施設「スパスティクチルドレンズセンター」のビデオやスライドを見る。障害者施設への訪問の意味について深く考えさせる。
2	総合的な学習　グルーピング 障害者施設「スパスティクチルドレンズセンター」訪問に向けてのグルーピング 水泳グループ等介助グループの作成
3	保健・体育 公開研究授業 健康と生活・集団の健康「健康を守るための活動のひろがり」 題材「バリアフリー」なもの
4	総合的な学習　体験学習　公開研究授業 障害のある人々の生活を疑似体験する。介助の方法を学ぶ。訪問経験者の体験を聞く。
5	国語 現地公用語「マレー語」学習会　現地ローカルスタッフを交えて。
6	総合的な学習 各クラス毎に，障害者施設「スパスティクチルドレンズセンター」への訪問
7	総合的な学習 訪問後の感想報告書の作成，事後アンケートの実施

2　保健・体育の実践

①　単元名　　健康と生活・集団の健康「健康を守るための活動のひろがり」
　　題材「バリアフリー」なもの

②　単元のねらい

・「バリアフリー」なものについて考えることで，障害者のおかれている環境や社会について目を向ける姿勢を身につける。

・障害のある人々にとっての介助の大切さや，社会のあり方について考える素地を身につける。

・マレーシアにおける障害者施設訪問を通し，現地を理解する目を育て，国際的な視野に立った活動への意義を見いだす。

③　本時の目的

・「バリアフリーなもの」に気づき，障害者が社会生活を営んでいく上で，どのようなことが障害になるのかについて考える姿勢や態度を身につける。

・マレーシアでの障害者がおかれている環境に目を向ける姿勢に気づかせる。

④　本時の学習展開

	教師の働きかけ	予想される生徒の行動	支援・評価
導入	・缶ビールの提示 ・シャンプー・リンス提示 （学習資料を配る） （この時点で気づいた生徒は挙手） ・テレホンカード・ピルケース・お札等順次提示していく。	・提示された物の共通点について考え意見を述べる。 ・提示したものを近くで観察する。 ・共通点から，障害者にとってのものであるということに気づく。	・ある目的によって作られていることに気づかせる。 ・気づいた生徒に手を挙げさせ全員が自分が気づくよう促す。 ・生徒一人一人が発言できるよう支援する。
展開	・バリアフリーという言葉の意味を説明する。 ・他のバリアフリーな物をあげさせる。 ・例示できるものを例示する障害の種類や度合いによっても「バリアフリーな物」が大切であるということに気づかせる。 ・マレーシアの社会環境の中にあるバリアフリーな物にも気づかせる。	・その他のバリアフリーの商品について提示する。 ・身の回りにあるバリアフリーの物について気づく。 ・障害者にとっての「バリアフリー」の意味について考える。 ・あげられた「バリアフリー」なものや目的について学習資料にまとめる。 ・障害の種類別の「バリアフリー」について考える。	・示した商品がどんな対象にとって使いやすい物であるか気づき発言するよう支援する。 ・示された物を障害の種類によって分類するよう支援する。 ・自分の知っている知識について発言できるように支援する。 ・マレーシアの障害者にとっての環境について目を向けるよう支援する。
まとめ	生徒を以下のグループに分ける。 ①　目隠し　2班 ②　車椅子　1班 ③　膝にテーピング　1班 ④　耳にイヤホーン　1班 ⑤　手にテーピング　1班 学習カードを配る施設訪問に向けての体験学習の大切さに気づかせる。	・生活班（各班6人編成）を元にしてグループに分かれる。 ・分かれたグループ毎に当日の課題について考える。 ・考えた課題についてメモを取る。	・班毎に自分の興味あるものや持っている知識について発言できるよう促す。 ・予想される介助について考える際の支援を行う。 ・次の授業での活動のめあてを持たせるよう支援する。

⑤　評価

障害者の置かれている環境や社会について考え，積極的に発言していたか。

⑥　学習資料

学習資料Ａ

1999.2.18
保健・体育　学習資料

バリアフリー

これから例示されるものから バリアフリー とは、何のことか想像してみよう。

名称　シャンプー・リンス
内容（文や図で）
ボトルの側面にボツボツがついていて、区別ができる

名称　キリン　一番搾り
内容（文や図で）
プルトップの横に点字で表示してある

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

名称
内容（文や図で）

つまり バリア とは 障壁　障害

バリアフリー とは 障害者や高齢者の生活上不便な障害をとり除く

「共に生きる」という 共生 の発想

そして私たちも 使い勝手 よく 共用 できる、という意味もある。

宿題　マレーシアで発見できる バリアフリー を見つけてみよう。

3　総合的な学習としての取り組み

①　障害者施設「スパスティクチルドレンズセンター」訪問への事前指導

実践研究を始めるにあたり，教師集団では「障害者施設訪問をどう生徒に意味づけるか」ということが話題になった。当時担当した生徒の実状から，生徒自身に「優しさを持った言動に気付かせたい」との意見があがった。この教師間の話し合いに対し「手術後に，自分が感じた命の尊さ」を話してくれる教師が動機付けの授業を行った。動機付けの話の中で，自分の病気がどのように家族に発覚し，そのことが家族に与える心身の影響や，自分自身が悩み続けた経験を話した。こうして昨年度の訪問の様子のビデオや教師の話からこの活動がスタートした。

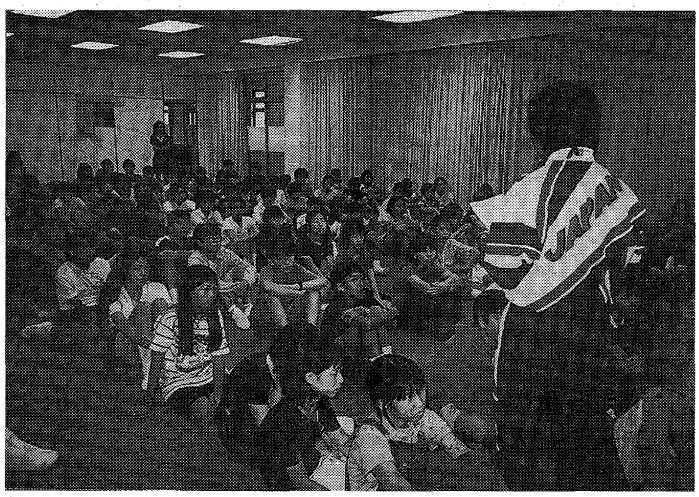
次に私が経験した障害児教育における「特殊教育の現状と課題」についてのレクチャーと共に教科「保健・体育」の立場から「バリアフリーなもの」という題材で授業(公開研究授業)を行った。(この内容については詳しく後に明記する)

更に「総合的な学習」の視点から，全クラス「障害者の世界を体験する」という体験授業(公開研究授業)を行った。この授業の体験の視点としては，

「目の不自由な人々の世界」での目隠しをした人を目的の場所に連れて行く介助の方法。
「車椅子で移動をしなければならない人々の世界」への車椅子の補助といった介助の方法。
「足の不自由な人々の世界」膝にテーピングして歩く人の階段歩行の介助の方法。
「ての不自由な人々の世界」手にテーピングした人が折り紙をするときの介助の方法。
「聴覚障害のある人の世界」耳にイヤホーンをした人に語りかける介助の方法。

以上5点について，障害のある人々への介助の方法等を体験した。

それ以外にも，マレーシアでの障害者施設訪問に備え，母国語である「マレー語」を現地スタッフを招き短時間の「マレー語講座」を開設した。「マレー語」学習はそれでは不十分で，国語科教員が国語教育の延長線上として，「即席マレー語講座」も開設した。更に私が担当する「保健・体育」科では，水泳授業で介助の方法の授業も行った。このように事前学習として教科の立場や「総合的な学習」の視点から，さまざまな教科の教師が積極的にこの取り組みを支援し，障害者施設訪問に向け多角的に援助する事前学習（総合的な学習）が行われた。



② 特殊教育に関する事前指導資料

特殊教育に関する資料

1 障害児教育の歴史 ～障害児教育観の流れ～

※ 歴史的背景・社会的欲求によって教育のねらいが変化していった。

① 排除の思想 ○きたない・けがらわしい

↓

② かわいそうな存在 ○保護隔離の思想

↓

③ 特殊教育スタート ○人に迷惑をかけない存在への教育

↓

④ 発達を促す教育 ○本人の力を伸ばす。素直なだけでない，自己実現への教育

↓

⑤ 発達を促しながら，社会適応を援助する。適応しやすいように社会が変わる。福祉と教育のノーマライゼーション。

↓

⑥ インクルージョン みんな違ってみんないいんだ。

2 障害児教育のねらい

☆ つきつめて考えれば普通教育と同じですが……。☆

①発達を促す教育（ことば・認識・からだ etc）

→持てる力を最大限に引き出す（MENTALLY RETARDED）の部分を補う。

②社会適応・身辺自立・職業的自立

→ Handicap 部分の解消・援助。

※ ①②の二つの両輪のバランスが大事である。

3 障害児教育をスタートさせるために

A．養護学校の児童生徒とは

1 一般的な知能の遅れ

2 染色体異常（色々の種類があるが一般的にはダウン症）

3 自閉症

現在は脳機能障害（昔は情緒障害と言われていた。）原因論としてはいまだひとつはっきりしていないが，脳機能の損傷を生み出す病名は色々ある。その結果として，固執・多動・パニック・こだわり・部分的に記憶力・パターン認識などの特徴を持っていれば，自閉症候群として考えて良い。

B．その他の養護学校とは

1 知覚障害者 聴覚・視覚等の障害

2 身体障害者 脳性マヒ等様々な理由による身体不自由者

4 今，養護学校では？

歴史の流れからも分かるように，かつての適応教育からかなり，発達を促す教育，生活の質を高める教育に変わりつつあるが，まだまだ個人差（教師の）は大きい。

どんな人間に育って欲しいかは，障害児教育の方法や技術を知らない先生達の間で集団検討することが大切だと思う。

① からだをつくる。
② 生活を学ぶ
③ 社会生活のルールを学ぶ
④ 認知能力を学ぶ

― 基本に時間割が組まれている。

最近の特徴として，集団の中での指導とか集団の中での育ち会いなど不要だといっているわけではないが，個別指導（個別課題への対応）の重要性が叫ばれている。

教育の中にもインフォームドコンセントの思想が入って来ている。

③　マレー語講座学習資料

STASボランティア体験学習に向けての

マレー語講座

1. 日時　2月19日(金)　6校時(1～3組)
　　22日(月)　1校時(4組)

2. 場所　AV室

3. 指導過程

講師 ・Mr. サイディーン
　　・Mrs. ザイナブ

通訳 ・Mr. カタノ

司会 小林

※2～3人のグループを作って活動する。

① あいさつ・講師の紹介

② 簡単なあいさつ・自己紹介のしかた。

・講師が話す
・全体でくり返す
・グループで練習する
・個人で発表する。

③ マレー語で何ていうの？
・当日、使いそうな言葉(文)をグループで挙げる
・講師に教えてもらう
・グループで練習する。

④ マレー語で会話してみよう。
・今日習ったマレー語で講師と話してみる。

4. 持ち物　筆記用具・(プリントは用意します)

☆ マレー語講座

氏名 _____

1. あいさつしよう.

2. マレー語で何ていうの?

- _____ → _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____
- _____ _____

あなたのための マレー語講座

＿＿＿組 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

1. あいさつをしよう.

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2. マレー語で何ていうの？

1. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

↓

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

↓

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

↓

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4.

↓

5

↓

6

↓

7

↓

8

↓

マレー語で話してみよう

○あいさつをしよう.

・おはよう Selamat pagi スラマッ パギ
・こんにちは Selamat tengah hari ティンガハリ
・元気？ Apa khabar アパ カバー？
・元気です Baik. terima kasih バイ. タリマ カセ どうもありがとう
・私の名前は～です. Nama saya ナマ・サヤ・～. 私
・あなたの名前は？ Siapa nama, awak シアパ ナマ・アパ・アワッ？
・また会いましょう. Jumpa lagi ジュンパ ラギ.

○マレー語で何ていうの？

・右 kanan カナン
・左 kiri キリ
・前 depan ダパン
・後 belakang バカラン

・何才ですか Berapa umur (awak) アンダ anda? ブラパ・ウムル・アワッ あなた.

・気をつけて (お大事に) Jaga Jaga ジャガ ジャガ
・あぶない. Awas アワス

・だいじょうぶですか？ Awak tak apa apa? アワッ タッ アパ アパ？

・ごめんね. Minta maaf ミンタ アアフ

・食べる makan マカン
・飲む minum ミノム
・すわる duduk ドゥド
・立つ berdiri バディリ
・遊ぶ main マイン
・歩く jalan ジャラン
・勉強する belajar ブラジャ
・見る tengok テンゴ
・さんぽする jalan jalan
・止まる berhenti バルハンティ

・～しよう。 Mari kita～
マリ キタ～

・～してね。 Sila ～
(Please～) シラ～

・何ですか？ Apa ?
アパ

lihat リハット

・痛くないですか？ Sakit tak ?
サケ タッ ?

・落ちついて。 bert nang .
バルタナン

・

・ついて来て Ikut saya.
イクッ サヤ

・こわくないですか。 jangan takut
ジャガン タッ？ こわい。

jangan
ジャガン → don't

・～できますか？ Boleh
ボレ～

・やってみよう。 Sila Cuba
シラ チュバ。

④「スパスティックチルドレンズセンター」訪問に向けての体験学習

スパスティックチルドレンセンター訪問に向けて

1999.2.18　「保健・体育及び学級活動」

グループ名　水泳　グループ　1年__組____番　氏名_____

1. 障害者の方々の苦労　（君たちが予想する苦労について書いてみよう）

マレーシアでは道路に日本のような歩道がない。車イスで生活する人たちは外で行動することがむずかしいのでは・・・・・。

2. 介助とその方法　（どんな介助が必要か？またどのように介助したらよいか）

介助というよりも、ボランティアをさせてもらっているという気持ちを持ってやることが大切だと思った。

3. 実習をしてみて大変だった点・気づいた点

かい段を車イスで移動することはできない。介助には最低1人の人が必要だ。

4. 訪問当日の介助での留意点・気づいた点　（どんな注意が必要か）

小さな段さやなだらかの道で車イスを押す時は、本当に注意しないとあぶない。

5. 他のグループの報告

①手グループ　手が動かないのは気持がイライラする。

②足グループ　足が自由でないとかい段は本当につらい。

③目グループ　目が見えないと音がたくさん聞こえパニックになる

④_____グループ

6. 訪問体験者の話

①_____さん　いっしょうけんめい介助をすれば相手はよろこんでくれる

②_____君　目をあわせて話してあげることがとても大切だ。ことばが分らなくても気持ちはぜったい！分かる。

4　当日の活動

施設からの要請により「水泳指導」「ことば・かずの認識レベルへの学習」「生活レベルの学習」への援助など数種類の援助グループの作成を促された。各クラスの中で希望者をつのり，グループ編成を行い当日の介助を行った。事前学習（総合的な学習）を踏まえた生徒だが，実際に「ボランティア活動」を行うと充分な知識を備えていたとは言い難い。しかし当日の生徒達の活動には，明らかに前年度の生徒達とは違った積極性が見えていた。「ことば・かずの認識レベルへの学習」を担当した生徒の大多数は，自身が準備した教材を提示し，障害のある方々へ指導していた。「折り紙を準備し，その作り方を事前にマレー語で学習してきた生徒」「水泳指導の中で仲間遊びを瞬時に思いつき，他のボランティアの人以上に大きな声で障害のある人々を引きつけ遊んでいた生徒」その活動は予想以上の成果をもたらしていた。

5　事後学習

①　ボランティア引継会

１日ごと，各クラスが障害者施設訪問を行うため，その日行った活動を次の日に行くクラスの生徒に伝える時間「引継会」を設定した。ここでは自分が行ったボランティア活動の内容，活動を行っていく上での重要点や注意事項等が引き継がれた。こちらが予想していた以上に生徒相互に真剣に意見が交わされる活動となった。特に生徒同士で伝えられた内容には，特定の障害者の名前も含まれ，その人に対する援助へのポイントなども伝えていく良い機会となった。

②　学年報告会

全４クラスのボランティア訪問が終了した日，学年集会「ボランティア報告会」を開いた。各クラスの代表生徒によるクラスの様子の報告と，そこで感じた様々な感想等を報告をすることで，４日間でそれぞれが感じたボランティア活動の体験を共有する良い機会となった。

Ⅳ　結果と考察

1　報告書（感想文）の作成

①　報告書（感想文）の作成

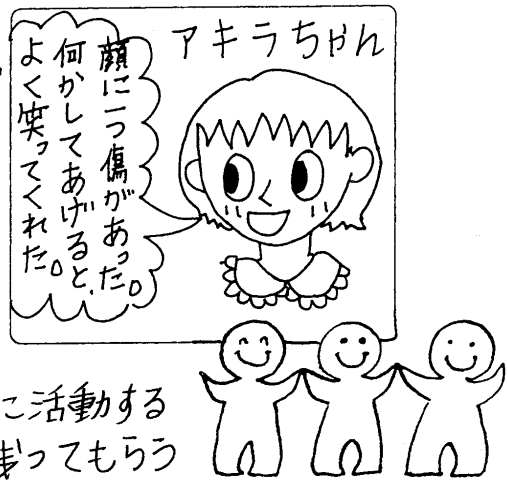
当日の訪問・引継会・事後学習を終えた生徒全員に感想文を書かせた。

スパスティックチルドレンズセンター訪問

事前に学習したこと・分かったこと

「おはよう」,「私の名前はリサです」など,
ちょっとしたマレー語
ほとんどの人は,一人だけだとあまり
動けず,だれかの手助けが必要
最近はそういう人達のために,カードや
いろいろに工夫がしてある

＝仲良くなった友達の似顔絵＝



今回の訪問に向けた自分のめあて

○障害者との「壁」をなくして,せっ極的に活動する
相手に,楽しみ,喜び,心のどこかに残ってもらう
ような時間にする
自分が"何か"を学べたらいい

当日自分として努力したこと

○まだ,小さい子達だったので,よだれが出てしまう。だから常にティッシュを持ち,よだれをふいてあげた
○車イスに乗せて,散歩させる時,落ちないようにひもで体を車イスにゆるく,結びつけてあげた
○水（ミネナルウオーター500ml）を飲ませる時,水が口からこぼれても大丈夫なように,下にティッシュをあてておいた

当日の訪問の感想（これからの生活に生かしていきたいこと）

○私達の担とうはまだ小さくて,食べさせたり,散歩させたりするのは案外,楽だった。けど,と中わめいたり,ほかの子をけったりする子がいて,ビックリした。今日一日だけの活動ではなく,これからも,ぼ金などをしていけたらいいと思う。またこれな機会があったら,せひ参加してみたい。

1年 1 組 41 番＿＿＿＿＿＿＿＿

2　単元終了後のアンケートおよび感想とその考察

①　ボランティア体験学習アンケート

当日の訪問・引継会・事後学習を終えた生徒全員を対象に以下の項目でアンケートを行った。以下にアンケート項目とその結果である。

ボランティア体験学習アンケート（　　）

1. 事前学習で役立ったことはどんなことですか。
   - マレー語で「右」「左」「前」「うしろ」をちゃんと覚えていたことが、車イスで散歩する時にとっても役に立ちました。
2. 当日の活動は、十分に活動できましたか。

   (A よくできた)　　B. だいたいよくできた　　C. できなかった

   （・自分では、できるかぎりのことをやったと思います。ご飯をあげた時も、どんなによごされても、おとされてもくじけずにがんばりました。）

3. 個人で準備したものがあったら書いてください。
   - おりがみをもっていきました。
   - 相手の分のタオルも、もっていきました。
4. 個人的に行く機会があったら、行きたいと思っていますか。

   (A.はい)　　B. いいえ　　C. どちらとも言えない。

   理由（・もっと、もっと友達を増やし仲よくなりたいから。）

5. この活動がもう1度あるとしたら、どんなことを準備したらいいと思いますか。
   - おりがみをいっぱいもっていく。
   - ティッシュをかばんに入るだけ、いっぱいもっていく。
6. 活動を通して印象に残っていること。
   - ブランコで遊んでいる時、ブランコから私のことを呼んでくれたことが、とってもうれしかった。そのことが、とっても印象に残ってます。

A　事前学習で役に立ったことはどんなことですか。
・マレー語で「右」「左」「後ろ」をちゃんと覚えたことが，車椅子を介助して散歩する時にとても役立ったボランティアの意義の話がとても心に残っている。
B　当日の活動は，十分に活動できたか。
できた76%　だいたい良くできた18%　できなかった6% ・自分では，できる限りのことはやったと思う。ご飯の時も，どんなに汚されても落とされてもくじけず介助しようと頑張った。
C　個人で考え準備した物を書いて書いてください。
・折り紙を持っていった。相手の分のタオルを持った。ティッシュペーパーを多めに準備した。
D　個人的に行く機会があったら，行きたいと思いますか。
はい43%　いいえ5%　どちらともいえない52%

② スパスティックチルドレンズセンター訪問報告書感想

A　事前に学習したこと分かったこと
・スライドでは，何かにつかまって歩ける子は歩けない子の車椅子を押してあげるなど，センター内では助け合って生活していることが分かった。 ・「バリアフリー」の授業をして，障害者のための物が思ったよりたくさんあることに気づいた。 ・体験学習をして歩けない子や，目の不自由な人の気持ちが分かった。
B　今回の訪問に向けて自分のめあて
・先生が言っていたように「ボランティアをするんじゃなくて，させてもらうんだ」というように相手と活動したかった。 ・自分のために「人に優しくなるために」是非やってみたいと考えた。 ・向こうの子と仲良くなる。
C　当日努力したこと
・自分から積極的に介助しようと努力した。 ・向こうの子と仲良くなるよう頑張った。
D　当日の感想（これからの生活に生かしていきたい）
・向こうの施設の担当者のようにはうまくいかなく，戸惑ったこともたくさんあった。でも自分が用意した折り紙などに興味を持ってくれたのには感動した。自分でも思った以上に楽しかったし，是非機会があったら行きたいと思った。

今回の「総合的な学習」と捉えた現地障害者施設訪問は，「事後学習」生徒の感想にあるように充分に当初の目的を達成できたと考えている。また教科「保健・体育科」からのアプローチの仕方は，今後の「総合的な学習」を考えていく上で，ある程度の成果があったのではないかと考える。それは，アンケート中の「もう一度いってみたいか」に，43%の生徒がYesと答えていたことで立証されているように思う。

V　まとめと今後の課題

在外教育施設に通う生徒の実態は，日本で生活している日本人生徒以上に閉鎖的な環境である。何年もの間海外に生活していながら現地の人々とのふれあいや，言葉を交わす機会すら稀少である事は事実として挙げられる。一方在外教育施設に勤務する教師にとっては「国際理解教育」の推進は最も重大な任務の一つとなっている。しかしながら，周知の通り在外教育施設への派遣期間はほぼ3年間と規定されており，一旦はじまった取り組みが長続きすることは非常に難しいという側面を有している。それ故に在外教育施設における継続的な「国際理解教育の推進」は最も古く，そして最も新しい課題の一つといえる。

今回の「総合的な学習」と捉えた現地障害者施設訪問は，「事後学習」生徒の感想にあるように充分に当初の目的を達成できたと考えている。また教科「保健・体育科」からのアプローチの仕方は，今後の「総合的な学習」を考えていく上で，ある程度の成果があったのではないかと考える。それは，アンケート中の「もう一度いってみたいか」に，43%の生徒がYesと答えていたことで立証されているように思う。実際には生徒の声を生かし，夏期休業中に自主参加による，障害者施設でのボランティア活動を企画開催し多くの生徒が参加した。また，この実践を通し学び得たノウハウは次年度にも繰り越され，今年度も夏期休業中の「障害者施設ボランティア訪問」は継続されている。

前述した在外教育施設における課題について考えると，今回の実践研究はそうした継続的な「国際理解教育の推進」に向け実践可能な内容を提示できたのではないかと考える。障害者施設は一部の国を除き，多くの国に存在する事は想像できる。そうした施設に前向きにコンタクトを取り，在外教育施設で学ぶ生徒にとって真の意味での「国際理解教育」を推進していくことが必要ではないかと考える。また，保健・体育教師として今回の実践が，そのアプローチとして捉え今後の派遣教員への資料となればと考える。